

『後期の授業から、遅れてのスタート』

中西 陽介

この度、3月から半年間、山西大学に留学させていただくこととなりました。まず、このような素晴らしい機会を与えてくださった、埼玉県および山西省山西大学の関係者の皆さまに感謝申し上げます。

従来の一学期間の留学コースに加えて、短期の留学も選択できるようになりました。これにより学生さんだけでなく、社会人の方もこのプログラムに参加しやすくなったのではないのでしょうか。

私は普段、劇団で活動しております。学生生活の他にも文化交流などでもレポートしていければと思います。

期待と不安を胸に山西省太原にやって来ました。授業開始は3月からだったのですが、私は少し早めに到着させて頂きました。なぜなら、中国のお正月「春節」の時期を現地で過ごしてみたかったからです。

日本では旧正月とも言われるこの春節は、中国では一年で一番大きなイベントであり、日本でもニュースなどでしばしば取り上げられます。是非これを実体験してみたいと思い、2月中旬に到着しました。



静まり返った校内

しかし、これは大きな誤算でした。中国人にとって春節は、家族、親戚が集まって一緒に過ごす時期であるため、お休み期間に入ると街はひっそりとしています。学校の中には、食堂や商店がたくさんありますが、寒暇(冬休み)の時期は全て閉まってしまいます。中国人の学生は皆帰省し、寮に残っている留学生も数人だけ。広大な学校の敷地内にほとんど誰もおらず、まるでゴーストタウンのように静まり返っています。学校周辺のお店も全て閉まっていて、思いもよらぬサイババル状態になってしまいました。

一時間半ほどかけて市内中心部まで行っても、ほとんどの店舗は閉店していました。衣料品中心のショッピングビルは営業していましたが、飲食店は軒並みお休み。歩きに歩き回って、ようやく人がたくさんいる通りを見つけました。

「食品街」と呼ばれる一角だけは、お正月用の装飾も施され、活気に溢れていました。いろいろ食べ歩きもでき、なかなか楽しい通りです。そこで、市内の大型スーパーは営業しているとの情報を聞き、大量に買い込み、帰路につきました。

本当に不便な時期でしたが、よくよく考えてみると、本来お正月はこうあるべきなのではないかとも思えるのです。仕事は休んで、家族、親族みんな故郷に帰り、手料理を食べ語らう。最近は旅行に行く人なども増えてきたようですが、大多数の人たちは家族団らんを楽しむ。なんとも幸せなことではないでしょうか。

日本では、元旦からショッピングなどで街は大賑わいですが、それは、そのためにお正月も働いている人たちがたくさんいるという事です。

除夕(大晦日)の夜、寮の部屋で、一人静かにスーパーで買ったパンを食べていると、突然、宿舎の裏手から花火が上がりました。ものすごい音で、とめどなく大量の花火が打ち上げられ続けます。深夜であろうと、容赦のない大爆音に、中国に来たなという実感が湧きました。しかし近年、都市部では花火や爆竹が禁止されているそうです。

半年間、頑張っ勉強し、そして埼玉県をアピールしていきたいと思います。よろしく願いいたします。



食品街



宿舎の窓から